



<ラムサール通信>

2016年5月2日発行 第178号

●ラムサールセンター第26回総会のお知らせ●

ラムサールセンター（RCJ）の第26回総会を下記の日程でおこないます。昨年度は25周年ということもあって8月開催でしたが、ことしはいつもの季節にもどりました。平日夜の開催は久しぶりです。多くの方の出席を期待しています。終了後は懇親会の予定です。

◆ラムサールセンター第26回総会◆

とき：2014年5月27日（金） 午後6時～8時

ところ：法政大学（市ヶ谷キャンパス）ボアソナードタワー 24階会議室

千代田区富士見2丁目17-1（JR飯田橋、市ヶ谷駅から徒歩10分）

地図：<http://www.hosei.ac.jp/access/ichigaya.html>

●臨時役員会開催し、新規プロジェクト「ベンガル湾」（KNCF助成）承認●

4月15日（金）、法政大学人間環境学部会議室で、経団連自然保護基金（KNCF）に内定した「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力ネットワークの構築—地域住民の気候変動、防災、生物多様性条約保全に対するキャパシティビルディング」（292.5万円）について、役員による戦略会議をおこないました。

RCJはこれまでインドやバングラデシュで、現地NGOのパリシュリやバングラデシュポーシュをパートナーに長く活動を続けてきましたが、このベンガル湾事業はその発展として、将来展望を切り拓くものと位置づけ、①ベンガル湾は空白域であり、新しい視点は重要である、②当面はベンガル湾内奥部の3か国（インド・バングラ・ミャンマー）の沿岸域に焦点をしばってローカル委員会をつくり、③ラムサールサンホセ決議VII.8（参加ガイドライン）、バレンシア決議VIII.4（統合的沿岸管理）、そして今回のCEPA決議などと照らし合わせ、④条約実施の観点からの優良事例の共有や、ガイドラインが見落としている点がないかなどをいねいに見ていく、そして⑤点と点を結び、国際的な線や面としての沿岸域ネットワークづくりを支援しよう、という方針を確認しました。臨時役員会の参加者は安藤元一、磯崎博司、岩間徹、藤倉良、林聡彦、亀山保、岩崎慎平、武者孝幸、中村玲子、そして会員の田辺篤志のみなさんでした。

具体的活動として、6月5～7日、タイ・バンコクで、「ベンガル湾の湿地保全ワークショップ」を開催します。アジアからBishnu Bhadari、Sanowar Hossain、D.P.Dash、Sansanee Choowaew、Seung Oh Suh、Htun Paw Ooほか、日本からは磯崎博司、岩間徹、藤倉良、亀山保、武者孝幸、名執芳博、長倉恵美子、中村玲子、田辺篤志のみなさんの参加が予定されています。

●地球環境基金は不採択でした●

RCJ が国内重要事業に位置づけ、地球環境基金（JFGE）に申請していた「東京都『江戸前』湿地と文化の再生を通じた地域活性化—1964年から2020年へ『埋立立地』大森の海が遺してきたもの、そして挑戦—」は、残念ながら不採択でした。しかし今後も「大森海苔のふるさと館」やその管理運営 NPO の「海苔のふるさと会」のみなさんと連携して、できるだけの活動を続けていきます。

RCJ が代理人として支援するパリシュリの「インド国バフタ入江湿地における強靱なコミュニティ構築のための気候変動適応に向けた住民参加型環境教育と生計改善の実践」と、バングラデシュポーシュの「バングラデシュ国テクナフ半島の住民によるベンガル湾の生物多様性のための『責任ある漁業』の推進」は、3年計画のそれぞれ初年度の地球環境基金助成が内定しました。いずれもベンガル湾岸の湿地保全とコミュニティ支援を主眼とする活動で、RCJ のベンガル湾事業との連携や相乗効果が期待されます。

また、KODOMO ラムサール湿地交流に参加した経験をもつ中学生～大学生がつくった NGO 「ユースラムサールジャパン」の事業も地球環境基金の助成が決まりました。若い力の活躍に期待したいと思います。

●ラムサールシンポジウム 2016 in 中海・宍道湖（8月27日～29日、鳥取県米子市）● ホームページ開設。発表要旨の募集を開始しました



RAMSAR SYMPOSIUM 2016
Nakaumi & Shinji-ko

前号でもお知らせしたとおり、8月27日(土)～29日(月)、鳥取県米子市（全日空ホテル）で「ラムサールシンポジウム 2016 in 中海・宍道湖」を、RCJ と鳥取県、島根県、日本国際湿地保全連合（WIJ）、日本湿地学会、環境省、中海・宍道湖・大山圏域市長会、中海水鳥国際交流基金財団、ホシサギグリーン財団と共催で開催します。実行委員会（委員長名執芳博 WIJ 会長）でプログラムを決定し、発表要旨（口頭／ポスター）の募集を開始しました。応募締切は6月30日です。

このシンポジウムは、「ラムサールシンポジウム 1996 新潟」の成果を引き継ぎ、20年後の日本の湿地の現状、課題を総合的にレビューするものです。「湿地をとりまく状況はどうか変わったか」「湿地を地域にどう役立てるか」「湿地の管理に携わる人々の活動を強化するには」を中心テーマに、これまでに得られた知見・技術などを共有して、湿地を軸としたネットワークを築き、相互支援と連携を強化することを目的としています。行政、研究者、NGO、市民、学生などあらゆるセクターの幅広い分野からの参加、発表、情報交換を期待します。なお27日には日本湿地学会の大会が、島根大の協力で松江（くにびきメッセ）で開催されます。

詳細については、WEB（<http://www.ramsar2016.org/>）または RCJ 事務局でご確認ください。

●「エコライフフェア 2016」に今年も出展します● —各地の湿地自慢、味自慢、郷土自慢が集まります—

毎年6月の環境月間に、国際環境デーを記念して東京・渋谷の代々木公園でおこなわれる恒例の環境省主催「エコライフフェア 2016」が、今年は6月4～5日の2日間で開催されます。RCJ は、WIJ、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議、ユースラムサールジャパンと共催で、今年も「湿地の恵み展」を出展します。

ラムサール条約や湿地の魅力、楽しさ、私たちにもたらしてくれる恵みを知ってもらうための普及啓発イベントです。

テーマは「湿地の恵み～ラムサール条約・湿地の観光と物産～」で、昨年も好評を博した湿地の恵みの物産と観光資源を、各地の関係自治体・NGOが「湿地に行ってみたくなるよう」に紹介します。恒例の湿地じまん大会、フォトコンテストなども開催します。また4日の夜には、渋谷の勤労福祉会館で、各地の湿地から持ち寄りの味自慢郷土自慢を交換、試食しあう「交流会」もあります。同時にユースラムサールジャパンのミニ交流会も予定しています。まだ一度もエコライフフェアに行ってみたことのない方、どうぞぜひ足をお運びください。

●WIJのWet. CAFE 参加報告●

2016年4月15日、渋谷区の地球環境パートナーシッププラザ内で、日本湿地保全連合(WIJ)主催の「Wet. CAFE」が開かれました。Wet. CAFEは基礎的から先駆的な内容の、毎回テーマを変えながら湿地に関する話題についての専門家の講義を聞く、新しい形のワークショップです。今回は第3回目で、東北大学大学院生命科学研究科の鈴木孝男先生が「市民による干潟のベントス調査」についてお話しされました。

内容は、東日本大震災の前後の東北地方の干潟の生物種を市民調査で調べ、各干潟における優占種・少数種などを判定し評価、出現頻度などの変化をまとめ、東北全体での変化を俯瞰するというものでした。底生生物を対象として、専門家1、2名と一般市民6、7名で科学的分析に耐える調査をおこなうことができるという点はとても斬新に感じました。会場は盛況、コーヒーの良い香りがしました。お茶菓子とコーヒー、紅茶を机に置いて、皆さん真剣な表情です。質疑応答では熱心に1人で何度も質問する方もいて、大好評のうちに幕を閉じました。その後は懇親会となりました。静かなカフェもいいけれども、賑やかなお酒もよいものですね。

Wet. CAFEは今後も開かれる予定です。情報はWIJのWEBページ(<http://japan.wetlands.org/>)で見ることができます。(佐藤湧馬)

【会員会友・短報】

平野紀子さん、浅尾せつこさん、ジェームズ・マックギールさん、市川英子さん：RCJの活動に使ってください、と切手やはがきを贈っていただきました。ありがとうございます。

田辺篤志さん：熊本大学大学院在学中。代表を務めるユースラムサールジャパンの仕事でたまたま上京中に熊本地震が起きました。RCJ事務局にも多くの方から心配しての問合せをいただきました。しばらく事務局ボランティアをした後、交通が回復して帰熊。自宅アパートの被害は軽微ですんだとのこと。

中村玲子さん：森林文化協会機関誌「グリーンパワー」に1月から「KODOMOと湿地」を連載中。各地のラムサール条約登録湿地の環境教育プログラムと子どもの活躍が紹介されています。

前川公彦さん：3月末、まだ雪残る北海道サロマ湖から、桜が散りかけた東京へ。10年ぶりに事務局を訪ねてくれました。サロマ湖とRCJをつないでくれた辻井達一先生の話に花が咲きました。

岩崎慎平さん：4月から福岡女子大学国際文理学部環境科学科准教授に。おめでとうございます。

故高橋一也さん：2月22日に急逝。四十九日忌(じゃいあんを偲ぶ会)を4月9日、蒲田・加賀屋で地元の友人ら5人と武者孝幸、亀山保、中村玲子、岡本嶺子、佐々木優で献杯。東京湾大森の海・海苔プロジェクトの遺志を継ごうと誓いました。

川嶋宗継さん、中村大輔さん：日本湿地学会「湿地研究」Vol.6 No.1(2016年3月発行)のトピックスに「ラムサールセンターが進める湿地環境教育『KODOMOラムサール』」が掲載されました。抜き刷りご希望の方は事務局へ。